

事後評価書

事業名	県営ため池等整備事業 馬の頭溜地区		事業区分	ため池等整備事業	室名	農業基盤室
事業概要	工期 (下段当初)	平成7年～平成11年度	全体事業費 (下段当初)	215百万円 (負担率: 国50% : 県30% : 他20%)		
		平成7年～平成10年度		193百万円 (負担率: 国50% : 県30% : 他20%)		
事業目的及び内容	<p>本ため池は、老朽化が著しく堤体上流法面は長年にわたる波浪による浸食が激しい。取水施設は老朽化しており、木栓にて取水を行っており操作が困難で危険である。洪水吐については老朽化しており断面狭小にて通水能力不足である</p> <p>以上のような危険要因を除くことを目的として下記の改修を行い、堤体の安全確保、用水の安全供給、洪水時の安全流下を図ると共に生産性の向上と維持管理の節減を図る他、堤体の決壊による災害を未然に防止する。</p> <p><馬の頭溜> 堤体工 1式、取水施設工 1式、洪水吐工 1式</p>					
1・事業の効果	<p>「直接的効果」</p> <p>① 計画時の事業目的の達成状況の評価 馬の頭溜、馬の頭新溜共に、堤体工、取水施設工、洪水吐工の改修により漏水が解消され、水管理が容易になり、洪水時においても決壊の恐れが少ないため池に改善された。</p> <p>② 当初の効果と完了後の効果（実測による数値、係数を用いた費用対効果分析等）の比較結果 計画当初の投資効率＝被害総定額は358,165千円で事業費より大きい、投資効率は算定していない。 完了後の投資効率＝2.28 (内訳、詳細については別添資料参照)</p> <p>③ ②以外の定量化（金額換算）できない他の効果 アンケートの結果から、「堤防が綺麗になり安全になった」との回答が47%、「ため池への道路が舗装が良くなり通行がしやすくなった」との回答が24%あったように、工事によりため池周辺が綺麗になったことが喜ばれている。</p> <p>④ 完了後の利用、維持管理の状況はどうか 馬の頭溜と馬の頭新溜の二つのため池について、堤体や洪水吐等の草刈りなどの維持管理は下深谷区関係者の出合い形式により行われており、また取水施設の操作、管理は役員により行われており、適切に維持管理が行われている。</p> <p>「間接的効果」</p> <p>① 波及的効果、その他当初目的以外の効果はどうか アンケート調査によると、平成12年9月の東海豪雨で桑名市は降り始めからの雨量が331mmを記録したにもかかわらず、本ため池では、洪水吐から安全に雨水排水ができたため、ため池は被災しなかった。また、受益地付近の農地に被害があったのは2件だけであった。 また、「用水の流れが良くなった」との回答が45%、「農作物や農地の被害が減った」との回答が15%あり、「特に効果はなかった」との回答は皆無であった。</p>					
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	<p>本事業は事業実施当時においては環境に配慮するような事前調査等を行っていなかったが、本地区は馬の頭溜と馬の頭新溜の二つのため池の改修であり、上流の馬の頭溜から着工し、ここに生息していた魚類は下流の馬の頭新溜に移し、逆に馬の頭新溜の工事の時には馬の頭溜に移すことによって魚類の保護を図った。</p> <p>アンケートの結果からは、「景観が良くなった」という回答が46%で、「変わらない」が19%であり、「動物や植物に悪影響を及ぼしている」が2%、「景観に悪影響を及ぼしている」が0%であったことから、地域の景観について良くなったか、以前と変化なしとの意見が大半であることから、環境負荷は小さいと考えられる。</p>					

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

本ため池は、桑名市深谷町の西外れの山沿いの谷地田がその受益地であり、農耕者以外はほとんど近寄らない場所であるため、事業完了後における情勢変化はほとんど見受けられない。

しかし、ブラックバス釣りのブームによる都市部からと思われる釣り人が訪れるようになり、ため池へのブラックバスの放流と周囲へのゴミの投棄が問題になっている。

4・県民の意見

- ① 県民の意見の徴集方法について（どの範囲の、だれに対して、どのような方法で、どんな内容か）
事業受益地の集落である深谷町集落（約500戸）にアンケート調査を依頼したが、農家に関連する人たち（約100戸）しか協力が得られなかった。（結果は別紙参照）
- ② 県民の意見の内容（全体の意見と肯定、否定意見等）について取りまとめ、評価する
 - ・ 回答者の年齢と専業農家か兼業農家か非農家かについての質問には、60歳～70歳以上の高齢者がほとんどで農業が副の兼業農家が多かった。
 - ・ 馬の頭溜で工事が行われたことを知っているかという質問には、ほとんどの方が知っていると回答した。
 - ・ 農業の経営状況は、約半数が0.5ha～1haまでの耕作者でこの地域においては谷地田の湿地が多いため麦などの転作はあまり行われていない。
 - ・ 農地の流動化については、40%の方が農地を貸しているか又は借りていると回答している。
 - ・ 事業完了後の災害については、平成12年度の東海豪雨があったにも関わらず、被害があったと解答した方は2%にすぎなかった。
 - ・ 農業面での効果については、用水の流れが良くなったと解答した方が約45%であった。
 - ・ 農業以外の面での効果は、堤防が綺麗になり安全になったと解答した方が約47%であった。
 - ・ 環境面での影響については、景観（景色）が良くなったと解答した方が約46%あり、環境面でも良い評価を得ている。

5・今後の課題等

- ① 事業実施における課題
 - a 事業実施に際し生態系に配慮した調査を行わなかった。
 - b 事業計画策定に際し非農家の意見を聴く機会を持つことができなかった。また、今回のアンケートについても非農家の協力を得ることができず、農業関係者だけのアンケートになってしまった。
 - c ため池の管理についてブラックバスを釣りに来る釣り人があり、この防止対策について多くの要望があった。
- ② 課題への対応方針（改善措置）
 - a 事業計画策定時において、環境等の調査を実施し地域の希少貴重な生物の保護を行い、生態系に配慮した事業の実施に努める。
 - b 農家・非農家からの意見を把握するためアンケート等の徴集方法やその設問の内容等について検討を加え、県民の意見として反映させたい。
 - c 環境部とも連携して、外来魚の放流禁止の徹底と池干しによるブラックバスの駆除を指導していく。

* 事業概要図、工法図等必要な図書を添付してください